

平成28年度 施策評価表

作成年月日：平成29年10月13日

課・グループ名

生涯学習課社会教育グループ

施策名	④社会教育の充実 3-3-④		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(3) 豊かな心を育てる社会教育の推進	④社会教育の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●町民の多様な学習ニーズを大切に、地域の課題に取り組んでいくため、関係機関や団体との連携・協力を図り、学習情報の提供や学習機会の提供に努めます。 ●町民が、南幌を知り、地域のあり方を学習する主体的で継続的な生涯学習活動を推進するための組織や環境づくりに努めます。 ●高齢者への学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進します。 ●社会教育活動を推進するため、農村環境改善センターの耐震等改修工事を行うなど、既施設の充実や有効活用を図ります。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ●価値観の多様化や高齢社会の進行により、町民が生きがいを持って、明るく豊かな生活を送るため、自らを高めることや健康づくりに取り組むための学習の機会や情報の提供が求められています。 ●町民の学習意欲の高まりや学習要求に応え、あらゆる機会・場所において活動し、学ぶことができる環境づくりが求められています。 ●社会教育活動を推進する上で、農村環境改善センターの耐震化や施設の改修工事により、利用者の安全性の確保や利便性の向上を図ることが求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会の変化に伴う地域課題や生活課題を把握し、関係機関や団体と連携を図り、様々な学習ニーズに対応した学習機会を拡充することが必要です。 ●高齢者が生きがいをもって豊かな生活を営むことができるように学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進することが必要です。 ●農村環境改善センターは、平成24年度の耐震診断により、天井部分の耐震改修工事が必要なほか、建設後30年が経過していることから、施設設備の老朽化等による改修工事が必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況								
①	成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
		高齢化が進む中、高齢者が生きがいや健康を学ぶ場や仲間づくりをするための場が必要であり、参加者数を増やしていくことが必要である。			成果指標 (総合計画・施策評価)		○	可能
							さわやかカレッジ参加者数	
					代替指標 ※成果指標がない場合			
								可能
	不可能							
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
②	指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
			H25	H26	H27	H28	H28	
	目標	人	793	806	832	858	858	高齢や健康上の理由で、学生の退学・休学が増加したが、アンケート等を実施し、学習ニーズに合ったプログラム内容を再検討したことが、参加者数の増加に繋がった。
	実績	人	602	542	496	512	512	
	達成率	%	75.9	67.2	59.6	59.7	59.7	
評価視点		評価結果					理由、課題・問題点	
③	施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)			施策の達成度	学生の高齢化が進む中、より多くの高齢者に学習機会を提供するためには、活動内容等を広く周知し、参加者数の増加に努めていく必要がある。	
			B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
			C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)			B		
			D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H28実績	H29予算
					実 績								
1	ふるさと南幌みらい塾 推進事業	(1)	生涯 学習 習課	参加者数	340	人	・ふるさと南幌みらい塾運営委員 会を組織して、実施する ・生涯学習講座(まちづくりコー ス、なんぼろ学コース、趣味・教 養コース、環境生活・健康づくり コース)の開催	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま 継続	244	高い	
					230	人					344		
2	さわやかカレッジ運営 事業	(1)	生涯 学習 習課	参加者数	858	人	・社会的知識習得の講座、見学 ・健康の維持と管理の講座、実践 ・世代間交流 ・ボランティア活動	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま 継続	44	高い	
					512	人					132		
3													
4													

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H28事業費	288
H29予 算	476

②H29に実施した新規事務事業					
実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)	
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性	町民の多様な学習ニーズに対応した学習の機会を提供する ため、事業構成は妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	A	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)											
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。					事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成29年度以降 の予算の方向性
	A										
	B										
	C	1	2					○	維持		
	D								縮小		